

# 沖縄戦戦没者の遺骨等を含む地域の土砂を 基地建設の埋め立て等に使用しないよう求める意見書

## 奈良県議会において採択

7月2日、奈良県議会において「沖縄戦戦没者の遺骨等を含む地域の土砂を基地建設の埋め立て等に使用しないよう求める意見書」が全会一致で採択されました。拍手が議場に鳴り渡りました。この意見書は「沖縄戦の遺骨が埋まる土砂の辺野古埋め立て使用に反対する奈良の会」が中心となって団体や個人への呼びかけが広く行われ、支援や協力の輪が広がりました。

「意見書」決議の意義は第一に沖縄を「捨て石」にして夥しい犠牲者を出した沖縄戦の実相を改めて明らかにしたことです。意見書では「南部に避難していた住民と日本軍が混在状態となり、沖縄戦戦没者の半数以上と言われる夥しい犠牲者が発生した」と、日本政府と日本軍が「日本国を守る？ため」にとった無謀な「戦略持久作戦」「捨て石作戦」が南部に避難していた沖縄住民の夥しい犠牲者の原因となったことを明らかにしています。日本軍による住民虐殺事件―「壕追い出し」「スパイ容疑の虐殺」「集団自害」等―を決して忘れてはなりません。第二に、「意見書」は「(大和の塔がある)南部一帯には本県出身者をはじめ多くの戦争犠牲者の人々が眠っている」「戦没者の遺骨を新基地建設の埋め立てに使用することは、犠牲者の尊厳を冒瀆し、『物言わぬ』戦没者を二度殺すような人道に反する行為であり、遺族の方々や国

民の悲嘆は計り知れない」と、遺骨を新基地建設の「人柱」とする政府の悪虐無道な暴政を痛烈に批判しました。また米兵や沖縄に連れてこられた多くの朝鮮人・旧植民地出身者等々の遺骨も残されたままである事実も同様です。そして、政府に「日本で唯一、住民を巻き込んだ苛烈(かれつ)な地上戦があった沖縄の事情に鑑(かん)がみ、「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」を遵守し、日本政府が主体となつて戦没者遺骨収集を実施すること」が強く要求されています。以上の通り我々の所期の目的が「意見書」に十分に反映されたと考えています。奈良県の経験も踏まえて、全国の都道府県議会で政府への意見書採択を求める運動が進展し、この理不尽で人道に反する「遺骨埋め立て」計画が中止されるまで、沖縄及び思いを一にする全国の皆様方と連帯して運動を継続する決意を新たにしています。皆様方のより一層のご支援・ご協力をお願いして報告と御礼と致します。

(「沖縄戦の遺骨が埋まる土砂の辺野古埋め立て使用に反対する奈良の会」からの報告とお礼を参照にしています)



県議会議長に申し入れと要望